

副理事長に就任して

中央開発株式会社 東北支店長

三浦 正人



◆はじめに

令和5年5月に副理事長を拝命いたしました中央開発株式会社東北支店の三浦です。

また、その前年の令和4年10月に技術委員長も拝命されており、兼任となっております。改めましてよろしくお願ひ致します。

地質調査業における近年の社会変化として、2005年の公共工事の品質確保の促進に関する法律の改正が行われ、生産性の向上、働き方改革の推進、Society5.0が目指す高度なITCの活用などが挙げられます。そのような流れの中、建設分野におけるインフラメンテナンス、生産性改革プロジェクト、i-Construction、BIM/CIM活用、インフラ分野のDXといった施策が打ち出されており、これらの変化に対応していくことが必要となっています。さらに、近年における激甚化する水害や令和6年の元日に発生した能登半島地震のような国難級と呼ばれる地震災害においても地質調査業として社会の要請に応え、貢献していかなければならないことが挙げられます。

このような中で、東北地質調査業協会の副理事長兼技術委員長という重責を担う立場となり、微力ではありますが地域および地質調査業界の発展に向けて貢献できるように努力していきたいと思っております。何卒よろしくお願ひいたします。

◆自己紹介

自己紹介については平成30年に理事に

就任した際にも寄稿しましたのでここでは簡単に記載いたします。

平成29年度に北海道から単身赴任で転勤となり、まもなく東北での単身赴任が7年となります。その時はまだ東北の土地勘もなく慣れるために苦労している状況でした。しかし、それから7年も経った今ではもともと東北に居たかのように思われるほど馴染んでいる状況です。

生まれも育ちも北海道で、7年前に東北に来るまでずっと北海道で過ごしていました。

大学が土木工学科であったためこの業界に就職し、入社時から設計・地質調査業務を担当し、その後、営業を経験して現在に至ります。広大な土地の北海道で長年過ごしてきましたが、東北も広い土地であり、東北6県それぞれ特色があります。仕事上かなりの広範囲に行く機会があり、各地の名物を食したり地酒を飲む機会にも恵まれ、東北を満喫しているところです。ただし、単身赴任であるので、飲食に関しては自分の好きなものを好きなだけ食べてしまうので体重の増加が気になっているところです。休日にはランニングをしたりもしておりますが、それだけでは追い付かないので自製しなければいけないと考えているところです。

◆協会での活動について

地質調査業協会の副理事長および技術委員長としてのいろいろな活動を行っています。それらの活動の中で主なものを

紹介いたします。

《地質調査技士検定試験》

地質調査技士検定試験に関してですが、事前講習会・検定試験・更新講習会を技術委員の方々とともに準備・運営や講師を行っています。講習に関しては、基準の改定や新しい技術が年々更新され、日々最新の動向を勉強しなければいけない状況です。検定試験の事前講習会は、技術委員のメンバー全員がパワーポイントの作成や講師・口頭試験面接官等を行っており、各担当の方々には大変なご苦勞をおかけしております。まだ地質調査技士を取得していない方は、是非、事前講習会を受講して地質調査技士合格を目指していただきたいと思えます。

《仙台工業高校出前講座》

仙台工業高校の全日制と定時制の生徒向けに出前講座を行っています。

内容は、地質調査に関する講義・ボーリング実習で、全日制はそれに加えて表面波探査実習を行っています。地質調査に関する講義は、技術委員の菅野副委員長が行い、ボーリングは（株）東北地質さん、表面波探査は応用地質（株）さんにご協力をいただいております。講座では、地質調査の概要を理解してもらい、ボーリングでは実際にボーリングマシンをグラウンドに搬入し、掘進と標準貫入試験を実施してその状況の見学や採取したコアの観察を行っています。表面波探査も実施状況の見学とともに、そのデータの確認や実際にカケヤによる起振を生徒に実施してもらうなどして探査の理解を深めてもらっています。このような活動により少しでも地質調査に関する知名度を上げてこの業界に興味を持っていただくことが重要と考えています。

《地質技術者セミナー》

協会各社の地質技術者を対象に地質技術者セミナーを行っています。地質技術者セミナーは、地質技術者の技術力向上の他、技術者同士の交流を深めることも目的として実施しております。かつては、若手技術者セミナーとして開催していましたが、現在では若手に限らず参加してほしいという趣旨から地質技術者セミナーとして開催しています。令和4年度までの3年間はコロナ禍のため日帰りのバスツアーで現場見学および意見交換会を行っていましたが、令和5年度は4年ぶりに宿泊を伴って開催することが出来ました。

令和4年度では、山形県のため池改修工事の施工中の現場を見学し、地質調査結果資料等も配布して、実際の施工状況を見学しています。また、帰りのバスでは意見交換会や相談コーナーなどを行って理解を深めるよう実施しています。令和5年度では福島県相馬港の液状化対策工の施工現場見学と、福島ロボットテストフィールド見学等行い、参加者でディスカッションを行いました。4年ぶりに宿泊を伴うセミナーとなり、恒例の地質技術者の意見交換・親睦の集いも開催することが出来ました。やはり、宿泊を伴った方が意見交換も活発となるとともに親睦も深められたので非常に有意義であったと感じます。詳細は別頁に掲載されていますので、ご覧いただき、興味のある方は来年度以降も積極的に参加していただければと思います。

《技術フォーラム》

技術委員長として、全地連で開催している技術フォーラムに参加しています。全地連技術フォーラムは、毎年、各協会持ち回りで開催していますが、令和4年度は沖縄、令和5年度は横浜で開催されました。東北以外での開催地での参加に

は特に何かの活動を行っているわけではないですが、各発表者の内容や各セッションの進め方等を視点に見ています。また、懇親会では各協会員との交流を深めることも出来ます。令和6年度は新潟での開催予定であり、令和7年度は山形での開催と聞いています。山形での開催では、東北地質調査業協会が中心に進めていくことになり、特に技術委員は各セッションの座長などを行うことになるので、再来年に向けて気を引き締めて行きたいと思います。

まだまだ協会活動は行っていますが、紙面の関係上ここまでにしておきます。

おわりに

地質調査業の課題として担い手不足が挙げられますが、協会としてもボーリングマイスター制度等により魅力向上の試みが行われていますが、さらなる課題解決も必要と考えております。協会活動を通じて、これからの地質調査業の発展に貢献できるよう努力していきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。